



農災復旧工事の経過報告と陳謝

過日、新聞などで報道のありました、平成十六年十月二十日の台風二十三号により発生しました農業災害の復旧工事におきまして、一部不適切な事務処理に基づき、受領していた補助金がありました。市民の皆様方をはじめ、国、県などの関係機関、復旧、復興にご支援くださいました方々にご心配をおかけしましたことにつきまして、申し訳

なく思っております。経緯は、平成十七年度に繰越した農業災害五百八十九か所のうち、六か所が平成十八年三月三十一日までに完成が出来ていなかったものです。その原因につきまして、島内でも特に農業が盛んなため、工事にかかる休耕調整が困難であり、また、水不足を背景とした複雑な水利慣行等が支障になって仮設道路の確

保調整に時間を要したことにあります。このことで、一部に不適切なものがあつた事を改めて陳謝いたします。金額については、事務雑費二十九万六千五百九円の補助金返還となる見込みです。今後、こうした事案が再び起こることのないよう、再発防止に万全を期する所存です。

広域防災拠点が完成



▲大災害時に備え整備された、淡路広域防災拠点

東南海・南海地震や台風などの大規模災害に備え、非常食や物資の備蓄倉庫として、兵庫県が淡路ふれあい公園内で整備を進めていた「淡路広域防災拠点」が完成しました。二月二十四日には関係者ら約七十人が出席して竣工式が行われました。

同拠点施設は、鉄筋コンクリート平屋建八百十平方メートル。食糧三千食、毛布約二千枚、ブルーシート二百

淡路ふれあい公園内

枚、仮設トイレ三十基を保管。救助用ボートや投光器なども備えています。総事業費は、三億二千万円。大規模災害発生時には、救援物資の集積・配送やヘリコプターの臨時離着陸場拠点として、グラウンドや広場が使用されます。中田市長は、「期待していた以上の施設と設備。自然災害時には私たちの大きな支えとなることは間違いありません」と感謝を述べました。

ユネスコ文化遺産優良事例



▲入賞を喜ぶ坂東支配人、松崎侯磨副支配人、中田理事長、篠田嘉郎副理事長（左から）

約五百年の伝統を誇る淡路人形浄瑠璃が、ユネスコ・アジア文化センターの「コミュニティにおける無形文化遺産の活性化の優良事例コンテスト」に選出されました。

コンテストは、過疎化、継承者の減少、市町村合併など伝統芸能の継承が困難となった状態から、青少年を巻き込んだ活性化の成功事例を選び、世界各地に広く紹介しようとして開催されました。

財団法人淡路人形協会（理

淡路人形浄瑠璃が入賞

事長中田勝久市長）による淡路人形座（坂東千秋支配人）や市内の後継者団体への活動の支援が高く評価されたものです。同協会が応募し、沖縄県竹富島の種子取祭など六団体と共に、二月二十六日の同コンテスト国際審査会で優良事例に選ばれました。

中田理事長は「世界に認めてもらえてうれしい。入賞は、一所懸命保存に取り組んできた人への贈り物」と喜びを語りました。

第2育苗センター竣工（阿万上町）

いくびょう

レタス生産の競争力強化を目指す、あわじ島農業協同組合が国からの補助と県及び市の事務支援を受け、建設を進めていた、第2育苗センターが完成しました。三月六日には関係者ら八十人が出席して竣工式が行われました。

平成十三年度に完成した第一育苗センター（松帆）の供給能力を上回る生産希望があり、同センターを建設しました。両施設合わせて

二百四十八畝分の苗の生産が可能となります。

完成した施設は、作業棟（鉄骨平屋建九百八十四平方メートル）、育苗ハウス（鉄骨ガラス張二千四百三十平方メートル）。一時間あたり四百トレー（八万本）の播種が可能で、発芽庫、冷蔵庫を備えています。育苗初期の成長を抑制するハロゲンランプ、夏季の育苗時には床から冷気を強制送風する設備も備えています。



▲ランプや冷却装置を備えた育苗ハウス

JAあわじ島

南あわじ市消防団 女性団員

「チームサザンクロス」活動開始

南あわじ市消防団（真野和典団長）の女性団員が二月二十五日、うずしおマラソン全国大会で火災予防のPR活動を行いました。

消防団では、昨年末から女性団員の募集を開始、現在十四人が入団しています。女性団員組織の愛称は「チーム サザンクロス」。空に輝く南十字星のように、永く美しく輝き続けることをイメージして名付けられています。

この日は、マラソン大会で警備を担当する消防団員らとともに、女性団員八人が福



▲マラソン大会で火災予防を啓発する女性団員



▲チラシの配布とともに、一人ひとりに説明しました

良小学校に集合。住宅用火災警報器設置のチラシや防火ハインドブックを選手や観覧者に配布しました。

今後は、広報活動として、防火パレードや火災予防運動等の行事に参加します。また、学校での消火器の使用方法や心肺蘇生法、止血法などの指導、高齢者世帯での火気等の取り扱いや緊急時の行動など、予防啓発を行う予定です。

消防団では引き続き女性団員を募集しています。消防課 ☎ 43・5006

災害に備え救護訓練

南あわじ市赤十字奉仕団

大規模災害に備え、救護活動の充実と会員の防災意識を高めようと、南あわじ市赤十



▲人形を使いAEDの使用方法を学ぶ団員ら

字奉仕団（奥井光子委員長）では二月十七日、西淡公民館で実践訓練を行いました。

訓練には、団員五十一人が参加。淡路広域消防事務組合西淡出張所の救急救命士から、心肺蘇生法や止血法、自動体外式除細動器（AED）の使用法などを学びました。

訓練を終えた団員らは「とっさの時にでも行動できるよう、何度も講習を受けて不安を無くしたい」と感想を述べました。

交通死亡事故多発

市内で交通死亡事故が続いていることから、南あわじ市交通対策協議会では、「交通死亡事故多発緊急キャラバン隊」を二月十九日に発足させ、中山峠で街頭呼びかけを行いました。

市内では今年に入って既に四人が交通事故死。昨年同期の二倍で、一年間の六人に迫る勢い。

南あわじ警察署でも三月十三日、「南あわじ交通特別取締部隊」を発隊させました。

安全運転を街頭啓発



▲キャラバン隊による啓発活動

白バイ十台とパトカー二台が速度超過や飲酒運転の撲滅などのパトロールにあたります。